

世界的な株安連鎖の中でBRICs各国の株式市場が下落

HSBC投信株式会社

- ・ 8月17日(月)、前週末の米国の消費者信頼感指数の低下と米国株安を受けて、アジアの株式市場が軒並み下落しました。アジアでは特に中国本土株市場が金融引き締め懸念などを背景に急落しました。その後、欧州、米国へと世界的な株安連鎖が進行しました。BRICs各国では、中国に加え、インド、ロシア、ブラジルの各市場も下落しました。ここに来て、世界経済の回復に対する過度の期待が後退し、市場では最近の急ピッチな株価上昇に対する警戒感が出ている模様です。
- ・ 世界経済はなお不透明要素を多く残しており、引き続き米国をはじめとする先進国や中国を中心とする新興国のマクロ経済の今後の動向を注視する必要があります。BRICs各国の株式市場は短期的にはなお不安定な動きとなる局面も見込まれます。しかしながら、既に世界景気は最悪期を脱しており、緩やかながら回復局面に入っているものと当社では見ています。今後、世界的に景気が回復に向かい、投資家のリスク選好度が再び高まる中で、とりわけ成長力の高いBRICs各国の株式市場に投資家の注目が一層集まることが期待されます。

世界的な株安連鎖が進行

8月17日(月)、前週末の米国の消費者信頼感指数の予想外の低下と米国株の反落を受けて、アジア各国の株式市場が軒並み下落しました。アジアでは特に中国本土市場が金融引き締め懸念など後述の要因により急落し、上海総合指数は-5.8%と今年最大の下げ幅を記録しました。これらを背景に、香港H株指数も前営業日比-4.2%、レッドチップ指数は同-4.8%、また、インドのSENSEX30指数も同-4.1%となりました。日経平均も中国本土株急落の影響も受け前営業日比-3.1%となりました。その後、欧州市場でも英FT100指数が前営業日比-1.5%、独DAX指数は同-2.0%と下落、特に、ロシア株式市場は原油・資源価格下落の影響が加わりRTS指数が前営業日比-5.1%と急落しました。この流れを受けて同日の米国市場もダウ工業株30種が前営業日比-2.0%、ブラジルのボベスパ指数は-2.5%と続落、世界的に株安連鎖が進行しました。

※末尾の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をお読みください。

## 8月17日(月)の世界主要株価指数

主要株式市場	指数	騰落率 (前営業日比)
NYダウ(米国)	9,135.3	-2.0%
FT100(英国)	4,645.0	-1.5%
DAX(ドイツ)	5,201.6	-2.0%
Bovespa(ブラジル)	55,218.4	-2.5%
RTS(ロシア)	1,005.8	-5.1%
SENSEX30(インド)	14,784.9	-4.1%
上海総合指数(中国)	2,870.6	-5.8%
ハンセン指数(香港)	20,137.7	-3.6%
H株指数(香港)	11,395.0	-4.2%
レッドチップ指数(香港)	4,107.6	-4.8%

(出所)ブルームバーグ

### 今回の世界的な株安の背景

今回の世界的な株式相場の下落は、主に以下を背景としています。

#### (1) 米国消費者信頼感指数の悪化と景気回復期待の後退

14日(金)に発表された米国の8月の消費者信頼感指数は前月の66.0から63.2へと市場予想に反して低下、消費の先行きに対する懸念が広がり、同日の米国株市場は3日振りの反落となりました(ダウ工業株30種は前日比-0.8%、S&P500指数は同-0.9%、ナスダック総合指数は同-1.2%)。

また、米国の消費者信頼感指数に加えて、17日(月)には中国で対内直接投資の大幅減が報じられたこともあり、世界経済の回復に対する過度の期待が後退するとともに、最近の急ピッチな株価上昇に対する警戒感が強まりました。

#### (2) 中国本土株の急落

今回の世界的な株安の中でも、下落が著しかったのが中国本土株でした。①当局の金融引き締めへの政策転換に対する懸念が根強く残っていること、②中国銀行監督管理委員会(CBRC)による国内主要銀行に対するリスク管理強化要請、③対内直接投資の低迷(17日に発表された7月の対内直接投資は10ヶ月連続で前年割れの前年同月比-35.7%と大幅な下落)、④保険国内第2位の中国平安保険や鉱業大手雲南銅業など

大手企業の期待外れの決算、雲南銅業の需要に対する弱気な見方、などが影響しました。中国本土株急落は、年初来の上昇幅が他市場に比べ大きかったことに対する調整ととらえることもできます。

### (3) 原油・金属価格の大幅安とエネルギー・資源関連株の下落

17日(月)は、米国の消費者信頼感指数の悪化や中国の対内直接投資の低迷などを背景とした世界経済の回復に対する過度の期待が後退したことを受けて、原油、金属市況が急落しました。原油価格(WTI)は、14日(金)の前日比-4.3%に続き17日(月)は前営業日比-1.1%となりました。また、金属価格は前営業日比で、アルミニウムが14日-3.5%、17日-1.6%、銅は-2.1%、-3.1%、亜鉛は-4.5%、-3.0%、ニッケルは-5.0%、-2.4%と軒並み急落しています。

原油・金属価格の大幅下落を受けて、17日(月)は、世界のエネルギー、資源関連株が売られました。BRICs各国では、特にロシアとブラジルが影響を受けており、ロシアではルクオイル(前営業日比-5.8%)、ガスプロム(同-4.7%)などエネルギー株、ノリリスクニッケル(同-3.5%)など鉱業株が大幅下落、ブラジルでも鉱業大手ヴァリ(同-4.2%)が急落しました。

### 今後の見通し

今回の世界的な株価下落は、これまでの期待先行による株価上昇に対する警戒感が背景にあると思われます。他方、市場関係者の間では、今回の下げは市場の「健全な調整」と受け止める向きもあります。

世界経済はなお不透明要素を多く残しており、引き続き米国をはじめとする先進国や中国を中心とする新興国のマクロ経済の今後の動向を注視する必要があります。BRICs各国の株式市場は短期的にはなお不安定な動きとなる局面も見込まれます。しかしながら、既に世界景気は最悪期を脱しており、緩やかながら回復局面に入っているものと当社では見えています。今後、世界的に景気が回復に向かい、投資家のリスク選好度が再び高まる中で、とりわけ成長力の高い BRICs各国の株式市場に投資家の注目が一層集まることが期待されます。

以上

## ＜関連するファンドに関わる事項＞

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎にリスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては「投資信託説明書(交付目論見書)」を良くご覧下さい。

お客様には投資信託のご購入にあたり、以下の費用をご負担いただきます。

○申し込み時に直接ご負担いただく費用

－ 申込手数料 上限 3.675%(税込)\*

○換金時に直接ご負担いただく費用

－ 信託財産留保額 上限 0.5%\*

○投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

－ 信託報酬 上限年 2.1%(税込)\*

○その他費用の詳細は各々の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご確認下さい。

\*費用の料率につきましては、HSBC 投信が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係る費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧下さい。

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 308 号

(社)投資信託協会会員/(社)日本証券投資顧問業協会会員

## 当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。